
O型だったの！？

赤いりんご

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

O型だったの!?

【Nコード】

N1065F

【作者名】

赤いりんご

【あらすじ】

意味不明なクラスメイトはB型かAB型だと思っていた。しかし！そのクラスメイトはO型だったのだ！！そんなO型と主人公の日常。

FILE 0：プロローグ（前書き）

なんか連載になるのが変な感じの小説です。

（。・・・）ニヒッ

FILE 0：プロローグ

俺、高田雄喜たかだゆうきはどうしても気になるやつがいる。

同じクラスで後ろの席の満田智也みつだともやである。

何にもしやべらないし、先生に当てられても答えないし、体育の授業に出ているのを見たことがない。

しかし、ある日は隣のやつとか俺にしゃべりかけてくるし、先生に当てられたらしっかり答えるし、体育の授業にも参加。

めちやくちやマイペースだし不思議だからB型かAB型だと思って
いた。

しかし！コイツはO型だったのだ！

FILE 1：血液型判明！（前書き）

はやくも血液型判明。
なんか変ですね。

FILE 1：血液型判明！

ある日俺は気になった。

このマイペースな満田はいつたい何型なんだ！？

どうしても気になる。ストレートに聞いてみたのだが・・・。

満田の血液型が判明するのには時間がかかった。

なんと言っても無口で1ヶ月に1回ぐらいは積極的な満田である。いつ聞けば答えてくれるのかまったく分からない。

でもついに7月のある日、満田の血液型が判明したのだ！！

「満田く、お願いだから何型なのか教えてくれよ・・・。」

「・・・おまえは？」

しゃ、しゃべった！！この感動は「アルプスの少女ハイジ」のクララが立ったときと同じくらい感動するのだ！！

「俺はB型だぞ！満田は？？」

「・・・・・・O型。」

まっ、まじで――！！！！！！

俺はずっと満田はB型かAB型だと思っていた。
なのにO型だったとは!!! ありえない!!!

「おいそれってマジか？」

「……マッ。」

「お前B型かA B型じゃねーの？」

「……O型だよ。」

「そうだったのか……。」

「
・
・
・
それで?」

「なんでもねえ！」

満田はO型だった！！知らなかった。おおらかじゃねーぞコイツ。ていうかしゃべらないし。おおらかとはかけ離れていると思うのだから。

そういえば満田は「O型自分の説明書」を書店でじつと見つめていた気がする……。

なぞだらけだなコイツ。なんか気になるな。

そうだ！満田と友達になろう！満田が友達としゃべってるの見たことないし。決めた！

「おい満田！俺たち友達になろうぜ！」

「……友達？」

「おうっ！友達だ。」

「……おう。」

「友達になつてくれるのか!？」
「・・・おう。」

うつしやー！！！満田と友達になつた！
毎日しゃべってくれるかも。意外なところ見れたり!？
早く明日になんねーかな。

FILE 1：血液型判明！（後書き）

高田と満田が友達になりました！

FILE2：モテモテクールボーイ！？（前書き）

満田は結構素直でいいやつです。

高田の家族が出てきます。

FILE 2：モテモテクールボーイ！？

うつしゃー！満田と友達になってからの初めての登校だ。

実は満田に血液型を教えてもらって友達になったあとに一緒に登校すると約束したのだ。

今日の俺はいつもより早く起きた。

・・・というより起きてしまった。

別に初めての友達というわけでもないのになぜかとても楽しみなのだ。

満田がどんな反応をするのか気になるし、なんかおもしろそうだし。

「雄喜、何か楽しいことでもあるの？？こんなに早く起きちゃって

」

「うわっ！びっくりさせんなよ、母さん。」

「なんかとつてもごきげんよっ、今日の雄喜は。」

「なんでもねえよ。」

「そう。あんまり浮かれてなんか壊さないでね。」

はあ・・・。さっきのは俺の母さん。

自称34歳。俺は中2で15歳だから嘘に聞こえるけど本当でもおかしくない年齢だ。

あの人はしゃべるのが大好きだ。俺もよく話す。

俺と考えることとか、面白いと思うところとかがほぼ一緒だから、

俺は母さんに対しての反抗期というものはないようだ。

こんな話をしていると時間に遅れるっ!!

「いつてきます。」

「いつてらっしゃい。今日は部活の日でしょ、19:00までに帰ってらっしゃい。」

「分かったあゝ。」

待ち合わせの場所に行くと満田はもう着いていた。

「ごめんっ!おくれて。待たせたな。」

「おうっ。行くぞ、高田。」

・・・俺の名前覚えててくれた・・・!!!!

満田、俺はうれしいぞっ!

「ちゃんと話してくれるんだな。」

「まあ、友達だから??」

「ありがとな。」

キンコーンカーンコーン・・・
学校に到着。ちょうどいい時間だ。

・・・ん??満田のロッカーからなんか手紙つぽいのが3枚落ちたぞ??

「おい、満田、なんか手紙みたいなもの落ちたぞ?」

「ああ、ありがと。」

「それなんだよ。」

「んゝ・・・女子からの手紙・・・みたいなもんかな。」

「中見せろよ。」

「いやっ、女子の気持ち考えたら人にはみせらんねえよ。」
「ど、どんなこと書いてあるんだ??」
「ある意味ラブレターってやつ??」

・・・も、モテてるーーーー!!!
しかも一日に3通も?? なんかの間違いじゃねえのか!?

・・・つっても手紙に「満田くんへ」って書いてあつたしな・・・。
確かにコイツは結構な美形だ。

俺の彼女に聞いたら（彼女いたのかっ!!）女子の間では

無口なところがクールでかっこいい!!

・・・だそうだ。こいつは確かに俺だつてあこがれる。
スポーツだつてやる気になつてゐる日だったら、すげえ運動神経いいし、
勉強だつてやる気になつてゐる日だったら天才だし、期末テストなんて満点だし。

それより何よりも顔!!!
あのまつげの長さといい、まゆ毛の形といい、鼻筋の通った鼻といい、

たまゝに満田が笑ったときに見せるあの笑顔とえくぼといい……！
満点じゃねえか……！

ズルイ！満田になつて見たい……。
でも、彼女いたところ見たことないしな……。
よしっ聞いてみよう！

……。キンコンカーンコン……。

くそっ！予鈴がなつてしまった。また明日にでも聞くことにしよう。

FILE2：モテモテクールボーイ！？（後書き）

モテモテっ！！！！

何でこんなにモテるんだろうね、満田くん。

FILE 3：経験豊富（前書き）

言葉ばかりの小説だな・・・。

FILE 3：経験豊富

―放課後―

そういえば俺と満田は一緒に帰る約束をしていた。

実をいうと部活は同じ男バスだ。満田が2年のトップで俺が2番目。一緒に帰るということは満田の彼女のことを聞けるじゃん！！

「満田！帰ろうぜ。」

「ああ。あつちな。」

「めずらしいな、満田があんなに真剣にバスケやってるの。」

「なんか今日はやる気になったんだ。」

「ふーん。ところで満田って彼女いるのか？」

「いねえよ。」

「あんなに朝ラブレターもらってんのに？」

「全部断ってるから。」

「なんで！？」

「俺は好きなやついねえし、誰とも付き合う気はない。」

「付き合えばいいじゃん。」

お前どうせ学校一の美女の西園寺華恋さいおんじかれんにももらってんだろ??」

「もらったけど、俺、女嫌いだし。」

・・・なぬっ！？

女が嫌いだと?? なっなぜ！

モテてんのに・・・。その美形と天才的なところを俺に譲ってくれ
！！

「何で女嫌いなんだよ。」

「俺の姉ちゃんが強暴だったから。」

「姉ちゃんいたのか。」

「もう独立したけどな。」

「何があつたか知らないが女が全部そんなやつとはかぎらねえぞ。」

「そうだろうけど・・・。」

どうやら姉ちゃんとなんかあつたらしい。

何があつたんだか・・・。

「ということは彼女いたことないの？」

「あるよ。小6のとき。」

「だれと？」

さいおんじかれん

「西園寺華恋と。」

「西園寺と付き合ってたのか!？」

「そうだよ。小6だからあんなことやこんなこともしたな・・・。」

「あんなことつて・・・。」

経験豊富なやつだ！俺もしたことあるけど・・・。

てことは西園寺の処〇はこいつに奪われたのか？

へんなやつだ。性格意味不明なのにモテてさあ・・・。

何でこんなに性格意味不明なんだ・・・。

満田！解説してくれえ・・・。

FILE 3：経験豊富（後書き）

満田目線での満田の性格の解説はまだまだあとです。
そのうち出てくるかも・・・???

FILE 4：にぎやかな大家族（前書き）

ホント、言葉ばかりだ・・・。

FILE 4：にぎやかな大家族

最近満田と登校したり下校することが多くなった。
コイツは面白い。話す話題が母さんと一緒にウケる。
今日は満田の家族にせまってみようかな・・・。

「なあ満田、お前の家族ってどうなんだ??」

「どうなんだって?」

「家族構成とかさあ。」

「お前んちは?」

「満田から先に教えてくれよ。なんかおもしろそうだし。」

「・・・。」

「・・・なんかヤバいことでも言った??俺。」

「いやっなんでもねえけど・・・聞いたら驚くぜ??」

「なんかすごいことでもあんの??」

「すげえんだよ。人に話したことないし。」

「どんなん??」

「親父と、母さんと、兄2人と姉が2人、妹が4人だ。」

「お前んち・・・もしかして大家族?」

「うん。」

「すつげえ!!お前んちつて広いのか??」

「俺んちは1人1部屋あるぜ。」

「十分広いじゃん!!てことは親の職業もすごいのか??」

「これを言ったら自慢みたいになるからいえねえ。」

「自慢でもいいからさあ・・・。」

「やだよ。あんまり知られていいことじゃないしうわさになるといやだし。」

「俺、口かたいんだ。信じてくれよあ・・・。」

「つつても前小学校ですごい広まって……。困ったんだ。」

「そつか……。しゃべれねえならいいよ。」

「お前んちの家族は？」

「俺んちは母さんと父さんと俺だけだ。」

「兄弟いてもうつとうしいだけだからいいな。」

「でも1人だと暇なんだぜ？？宿題だつてわかんなくてもどうにも何ねえし。」

「そういう時は兄弟いたほうがいいんだな。でも1人になりたいときとか泣きたい時とかかねえんだぜ？？そういう時は1人っこでもいいなあつておもう。」

「そつかあ……。いいこと悪いところ方ともあるもんだな。」

「そうだな……。。」

「そうだ！今度満田の家いつてみてもいい？？」

「そのうちな。あ、俺こつちだから。じゃあな！」

「おう！また明日いつもの場所で！」

それにしても驚いたな……。満田が大家族なんて。

大家族のやつだったら誰に対しても明るいと思うんだが……。

そんな性格のやつなんだろうな。満田は。

満田の家が楽しみだ。

FILE 4：にぎやかな大家族（後書き）

大家族の満田！家はどんな感じなんだろう・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1065f/>

O型だったの！？

2010年10月14日21時39分発行